



お金がなくて 病院に行かない人もいる?!

メディカルライフ研究所 リサーチレポート1回目より、不調症状や疾患があると感じていながらも、病院に行かないで放置している人が多く存在する実態が判明しましたが、ではなぜそれらの人は「病院に行かない」のでしょうか。

今回2回目のリサーチレポートでは、長期不調症状や慢性疾患を保有していると認識していながら「病院に行かない」理由を「生活者の受療行動に関する調査②」(2012年9月実施)の結果よりまとめました。

Point 1

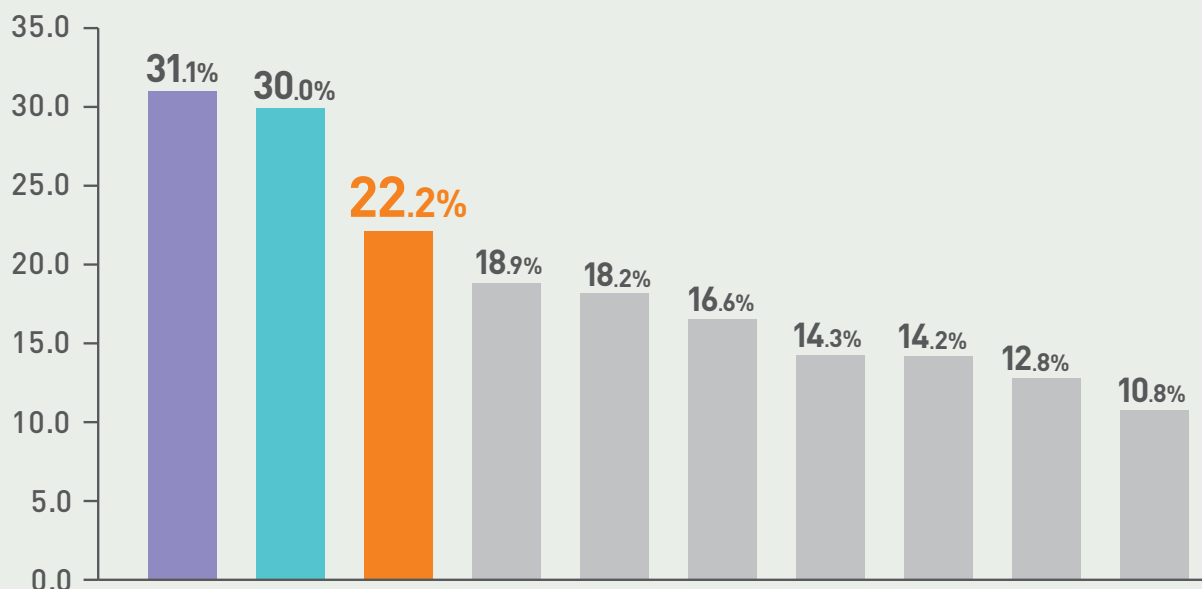
“病院に行かない理由”ランキング

病院に行かない理由TOP3は、
「病院に行くのが面倒」「症状が軽かった」「お金がかかると思った」

病院に行かない主な理由



長期不調(半年以上)や慢性疾患を保有していると認識していながら病院に行かない理由 TOP10 (n=1090)



病院に行くのが面倒だった

症状が軽かった

お金がかかると思った

できるだけ病院に行きたくない

少々不調があることぐらいは普通のことだと思った

病院に行く時間がなかった

不調の頻度が低かった

自分で治せると思った

市販薬で十分だと思った

病院よりも優先される用事があった

*「半年以上の長期不調症状または慢性疾患を保有していると認識している人で、その症状または疾患について病院で受診していない人」の回答結果

20代～60代の生活者において、長期不調（半年以上）や慢性疾患を保有していると認識していながら、病院に行かない人のその理由についてみると、1位が「病院に行くのが面倒だったから」、2位が「症状が軽かった」となっています。また、3位には「お金がかかると思った」があげられており、病院に行くことの煩わしさや、「まだ大丈夫」といった症状に対する自己診断だけではなく、経済的な面についても受診へのハードルとなっていることがわかります。

Point 2 “病院に行かない理由” 性年代別での特徴

若年世代になるほど「お金がかかると思った」が上位に。
男性30代は「お金がかかると思った」が1位。

長期不調（半年以上）や慢性疾患を保有していると認識していながら病院に行かない理由 上位項目（性年代別）

男性

20代 (n=122)	30代 (n=128)	40代 (n=113)	50代 (n=102)	60代 (n=79)
病院に行くのが面倒だった	お金がかかると思った	病院に行くのが面倒だった	症状が軽かった	症状が軽かった
お金がかかると思った	病院に行くのが面倒だった	症状が軽かった	病院に行くのが面倒だった	病院に行くのが面倒だった
症状が軽かった	症状が軽かった	お金がかかると思った	不調の頻度が低かった	少々不調があることぐらいは普通のことだと思った
病院に行く時間がなかった	病院に行く時間がなかった	病院に行く時間がなかった	できるだけ病院に行きたくない	市販薬で十分だと思った
できるだけ病院に行きたくない	少々不調があることぐらいは普通のことだと思った	できるだけ病院に行きたくない	お金がかかると思った	不調の頻度が低かった

女性

20代 (n=127)	30代 (n=104)	40代 (n=112)	50代 (n=106)	60代 (n=97)
病院に行くのが面倒だった	病院に行くのが面倒だった	病院に行くのが面倒だった	症状が軽かった	症状が軽かった
お金がかかると思った	お金がかかると思った	症状が軽かった	できるだけ病院に行きたくない	できるだけ病院に行きたくない
症状が軽かった	症状が軽かった	少々不調があることぐらいは普通のことだと思った	病院に行くのが面倒だった	病院に行くのが面倒だった
少々不調があることぐらいは普通のことだと思った	できるだけ病院に行きたくない	お金がかかると思った	少々不調があることぐらいは普通のことだと思った	少々不調があることぐらいは普通のことだと思った
病院に行く時間がなかった	少々不調があることぐらいは普通のことだと思った	不調の頻度が低かった	不調の頻度が低かった	不調の頻度が低かった

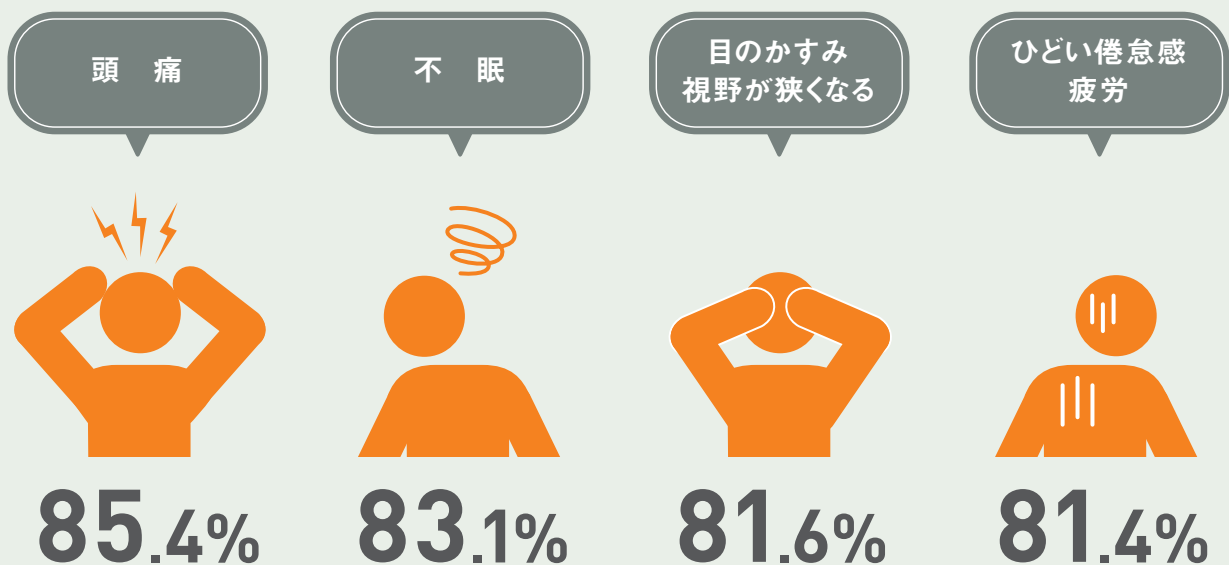
*「半年以上の長期不調症状または慢性疾患を保有していると認識している人で、その症状または疾患について病院で受診していない人」の回答結果

男女ともに、20代～30代の若年層は、40代以上の層に比べて「お金がかかると思った」が上位にあげられています。若年層では、高年齢層に比べて収入が低いことや、特に30代においては家の購入や子供の誕生などライフスタイルの変化から支出が多くなることなども、要因の1つと考えられます。一方、50代～60代については、経済的な理由よりも「症状が軽かった」が上位にあげられています。若年層に比べ、医療や健康についての意識も高く、これまでの経験と知識で症状の自己診断を行った上で「受診する/しない」を決めているのかもしれませんが。なお、20代～40代においては、男性が女性に比べて「病院に行く時間がなかった」が高めとなっています。特に30代～40代の男性は、平均労働時間も他の層に比べて高く、その多忙さから病院へ行くことが後回しにされていることがうかがえます。

Point 3 放置される具体的な長期不調症状

半年以上「頭痛」が続いている人の中で、
「病院に行っていない」ケースは8割以上。

病院に行っていない人の主な長期不調症状とその割合



その他にも、「激しい気分の沈み」76.3%、「胸やけ・胃もたれ・呑酸」73.2%という結果が出ています。

*「最も気になる症状として、上記の各長期不調症状の保有を認識している人」の回答結果

「頭痛」、「不眠」、「ひどい倦怠感・疲労」といった、長期間放置していれば慢性疾患に発展したり、重篤な疾患に繋がる可能性のある症状を保有していると認識していながらも、半年以上その症状について病院で診てもらわず放置している人が多く存在しています。

調査概要

- 調査手法 ————— インターネット調査
- 調査時期 ————— 2012年9月
- 調査地域 ————— 全国
- 調査対象 ————— 20歳～69歳 男女（最近2年以内に、半年以上の長期不調症状、または慢性疾患があると認識している人）
- 調査サンプル ————— 有効回収数2,000

【調査質問項目】

- ・保有していると認識している長期不調症状または慢性疾患に対する対処行動
- ・長期不調症状または慢性疾患があると認識しているのに、受診しなかった理由
- ・かかえている不調、または慢性疾患に対する、今後の受診意向/症状などの学習意向
- ・最近の医療/薬などに関する知識の保有状況 など

メディカルライフ研究所の見解と今後の活動

生活者が不調や疾患を病院で診てもらわず、放置してしまう理由について今回レポートでまとめさせて頂きましたが、これらの背景の1つには、生活者の医療・疾患に対する理解の不足があると考えられます。

不調・疾患の原因や、病院での治療、薬などに対する知識を高め、症状に対する認識を新たにする事で、「受療しなければ」という気持ちが醸成されることも、メディカルライフ研究所の研究で明らかになってきました。

当研究所では、引き続き分析を行い、生活者が病院に行くまでの気持ちのメカニズムを解明した「受療行動モデル」を近日発表する予定です。

次回のResearch Reportは……

不調・疾患を放置している人が「どうすれば病院に行くのか」をテーマにお送りする予定です。

*テーマは予告なく変更する場合があります